

高齢者の状況～国勢調査結果から～

平成 22 年 10 月に 5 年に 1 度の国勢調査が行われ、現在集計結果が順次公表されています。今回は高齢者の状況について見てみましょう。

高齢化社会といわれて久しくなりますが、京都府は現在どのようになっているのでしょうか。図 1 は平成 2 年から 22 年までの年齢別人口割合を表したものです。平成 7 年までは 65 歳以上の割合より 15 歳未満の割合の方が多かったのですが、平成 12 年からは 65 歳以上の割合の方が多くなり、毎回増加しています。15 歳から 64 歳の割合も平成 7 年をピークに毎回減少しています。

では市町村別にみるとどのようになっているのでしょうか。図 2 は府内の市町村を 65 歳以上の割合の多い順に並べたものです。市町村により 2 倍以上の差があることがわかります。年齢を分けてみると、65 歳から 74 歳の割合は大きな差はありませんが、75 歳以上の割合が多い市町村と少ない市町村の差が大きいことがわかります。割合の低い 1 位から 3 位は、学研都市地域の精華町、木津川市、京田辺市となっています。

図 1 京都府年齢別人口割合の推移（年齢不詳を除く）

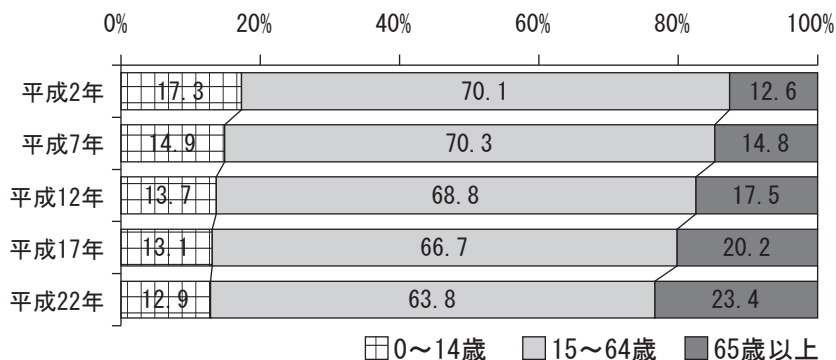
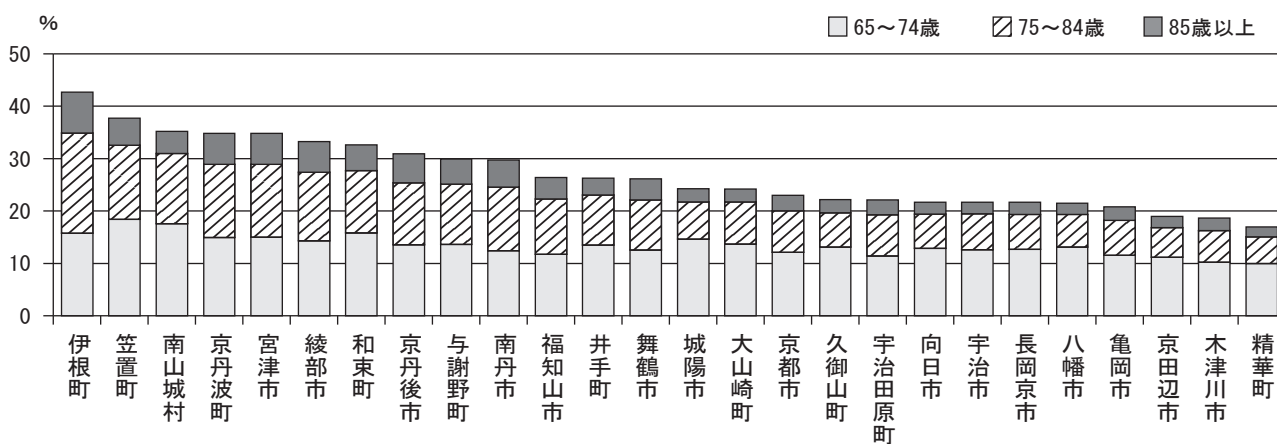


図 2 府内市町村別高齢者の年齢別割合（平成 22 年）



京都府の総人口は平成 17 年をピークに減少に転じましたが、高齢者の人口は毎回増加しています。高齢者の方にやさしい地域を目指し、日頃からコミュニケーションの広がりをお願いいたします。